




# セボネ

タガヤ      ランティア      ットワーク  
Setagaya    Volunteer    Network

特集

## P.2-5 「世田谷区手話言語条例」と 「東京 2025 デフリンピック」



まちの市民力 P.6    小さなカルチャーセンター～ publico（パブリコ）～ 

せたがやキラリ人 P.7    井上 文さん 

おたがいさまビュー P.8-P.11    ボランティア募集、講座・イベント・その他 お知らせ

# 「世田谷区手話言語条例」と「東京2025デフリンピック」

長年の念願であった

## 「手話言語条例」成立

世田谷区議会令和5年第4回定例会の12月7日日本会議において、議案第115号「世田谷区手話言語条例」



について福祉保健委員長から報告があり、全員一致で議決されました。その背景にある手話言語の歴史や世田谷区のろうあ運動について報告します。

手話がかつて、教育現場で禁止された歴史があります。日本のろう教育は明治11年、京都にろう学校が設立されたのが起源とされます。当初

は手話が使われていましたが、イタリア・ミラノであった世界ろう教育会議で、口の動きを読みとる「読話」や声に出す「発話」の「口話」のみをろう学校で使うことを勧める決議がなされました。

日本でも口話教育が広がり、昭和8年には鳩山一郎文部大臣(当時)が口話で教えるよう訓示。聞こえる人と同じように育てるという教育方針で、ろう学校での手話は禁止されました。そこで、当時の「口話法を推奨する方の意見」を列挙します

- 1 手話は通常の人とのコミュニケーション手段とはなりえない。
- 2 手話は健聴者には通じない。
- 3 手話法では音声言語の習得が困難で、文章に書いても不完全である。
- 4 手話法は家族も手話を学習しなければならぬが、実際は不可

寄稿／本多忠雅(ほんただただまさ)  
(NPO法人世田谷区聴覚障害者協会 常務理事)

能である。

- 5 手話はコミュニケーション効率<sup>①</sup>が低く、時間関係や空間関係、因果関係、抽象概念を表現することができない。
- 6 国語体系と異質な手話を学ぶと口話能力が低下する。

- 7 口話で教育されれば、異常であるろうあ児が発語を覚えて正常になる。口話法で音声言語を覚えれば、自立した社会生活ができる。

今から見れば、いかにも科学的な根拠のないものでした。欧米で手話を独自の言語として見直す動きもあり、最近では文部科学省も学校での手話の使用を一部容認され、ろう学校の多くで手話が使われるようになりました。

手話を否定することは、  
ろう者「きこえない人」の存在を  
否定することになりかねない

そして、いくつかの例を挙げてみます。今は廃止となっている立会演説会に手話通訳をつけてろうあ者の平等な参政権を保障させる運動や、ある裁判事件を契機としたろうあ者の公正な裁判を求める運動、道路交通法を改正してろうあ者にも自動車運転免許の取得権を獲得する運動、民法11条改正の運動（1979年までは、ろう者は「準禁治産者（心神耗弱・浪費癖のため、家庭裁判所から禁治産



世田谷区手話言語条例が区議会で採択された後の保坂区長のあいさつ

者に準ずる旨の宣告を受けた者。法律の定める重要な財産上の行為についてのみ保佐人の同意を要した。」と見なされ、住宅ローンの利用や家業を継ぐことも出来なかつた。」などがあります。このような運動の発展の中で、明らかになってきたのが手話通訳の問題です。

例えば、ろうあ団体が国や地方自治体へ働きかけたり、ろうあ者問題を語りかけて人々の理解を深めようとする場合、どうしても手話通訳が必要となります。手話通訳活動を通じて、次々にろうあ者問題が社会化され、手話通訳の必要性が浮上してきました。

いろいろな要求の高揚により、厚生省身体障害者の社会参加促進事業として、昭和45年（1970年）「手話奉仕員養成事業」、昭和48年（1973年）「手話通訳者設置事業」が開始されました。すなわち、「手話・手話通訳」が社会的に認知され始めたのです。しかしながら手話はコミュニケーション手段と捉えられていました。

## 世田谷区手話言語条例制定までの流れ 行政として

世田谷区内の障害者団体を対象に、「障害理解の促進及び障害者の差別解消、手話言語などの情報コミュニケーション等に関する条例制定に向けた考え方についての説明会」が2021年10月12日に行われ、「地域共生社会の実現を目指すうえで、障害理解の促進・障害者の差別解消・手話言語などの情報コミュニケーションについては各々が手法として不可欠なもので、これらを一体に取り組むために、同一の条例の中に位置づけ、施策を推進することが適切と考える。」との説明がありました。

NPO法人世田谷区聴覚障害者協会（以下／世聴協）からは、「差別解消と情報コミュニケーションは一体化してもよいが、手話言語も一体化することには無理がある。手話言語は言語であるが故に習得も大変。10年かかる場合もある。また言語であるので、配慮や対応が必要な分野は福祉だけに留まら

ず、社会全体、文化全体に及ぶ。よつて、みんなで一緒につくる条例と、手話言語条例はわけて制定すべきである。」との意見を出しました。

また、新条例制定に向けて、世聴協だけでなく、手話サークルたんぼぽ、手話サークル輪の会、世田谷区登録手話通訳者連絡会とも学習を重ねてきました。区とさらに意見交換を進めて、当協会からは、「きこえない人は一人ひとりコ



「手話言語法制定を求める意見書」が区議会で採択される。(平成26年10月17日)

ミュニケーション手段がまちまちで、手話言語が日本語かまず選択し、日本語の場合はさらに手話か筆談か等を選択する。視覚障害者は点字か拡大文字か、読み上げを選択することになる。盲ろう者は触手話や指点字などの選択になる。他の様々な障害者もわかりやすい日本語や、コミュニケーションボード（イラスト）などの手段がある。これらの選択を保障することが情報コミュニケーション条例が目指す整備の一つになる。一方、手話言語条例は言語の選択が出来る環境を整えること、手話言語の理解、普及を進めることであり、土台となるところが全く異なる。世田谷区のノーマライゼーションプランなどの体系は福祉・医療分野を包括するものと思うが、言語というのは社会全体をカバーするもので、情報コミュニケーションと手話言語は分けて推進すべき。」と訴えました。

結果として、手話言語に関する条例を独立させて別途検討することとし、新条例に情報コミュニ

ケーション条例を含める形で、「世田谷区障害理解の促進と地域共生社会の実現をめざす条例」として、2022年9月30日に成立し、2023年1月1日に施行されました。

そして、2022年5月26日の福祉保健常任委員会で独立した手話言語条例の制定を検討することを報告、2022年11月11日の福祉保健常任委員会で条例制定に向けた検討を開始することを報告し、手話言語条例の検討が始まりました。区における手話言語の基本的な考え方や必要な事項等を定めるための条例制定に向け、学識経験者や手話が必要とする当事者等で構成される条例検討会、障害者団体、障害者施策推進協議会等から意見をいただき検討を進めてきました。

## デフリンピックとは

オリンピックは誰でも知っています。パラリンピックもずいぶん有名になりました。では、デフリンピックはいかがでしょうか？



デフリンピックのデフ (Deaf)、英語で「聴覚障害がある、聞こえない」ことを意味する単語で、デフリンピックは聴覚障害のあるアスリートによる国際スポーツ大会です。

① 国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD: International Committee of Sports for the Deaf) が主催し、夏季と冬季

## 東京 2025 デフリンピック 大会期間

○ 2025年11月15日～26日(12日間)

・開会式: 11月15日

・閉会式: 11月26日

## 参加国

○ 70～80か国・地域

## 選手数

○ 3,000人

それぞれ4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会。第1回は、1924年フランスのパリで開催。

② 「デフリンピック」の名称は、2001年に国際オリンピック委員会(IOC)が承認。

③ 競技は一般の競技ルールに準拠するが、競技場に入った時点から、補聴器等の使用は禁止されることや、競技運営に国際手話のほか、スタートランプや旗などを利用した視覚による情報保障が特徴。

東京2025デフリンピックの実施競技・競技会場のうち世田谷区は駒沢オリンピック記念公園で「陸上・レスリング」・「ハンドボール」の三競技が行われます。

手話は各国で異なっており、例えば、日本には日本の手話、アメリカにはアメリカの手話があるため、海外選手と審判などのコミュニケーションには、国際手話を使える通訳者がサポートしますが、大会の運営ボランティアは、受付や用具運搬な

ど手話が必要のない仕事と、ろう者の選手をスタート地点や表彰台まで誘導するなど手話の必要な活動の両方があります。ボランティアの方々の手話の習熟度は様々で、手話ができなくてもボランティアは歓迎です。

皆様のご理解とご協力でデフリンピックを盛り上げようではありませんか。

**東京2025デフリンピック ボランティア募集**

募集期間 2025年 11月15日(金)～1月31日(金)

応募条件  
● 2025年10月1日(火)現在で日本国籍を有する方  
● 年齢制限はございませんが、18歳以上の方の応募が望ましいです

応募方法 各都道府県のウェブサイトから応募ください

募集人数 約3,000人

※ 本大会は、聴覚障害者、身体障害者、知的障害者、発達障害者、高齢者、外国人、外国人のボランティアも募集しております。応募資格は、聴覚障害者、身体障害者、知的障害者、発達障害者、高齢者、外国人、外国人のボランティアも募集しております。

**活動内容**

- 選手・観客・ボランティアの案内サポート
- 大会・メディアサポート
- 会場整理などとした後援業務サポート

**活動場所**

競技会場 駒沢オリンピック記念公園(世田谷区)

活動期間 2025年11月10日(月)～28日(金)

活動時間 5時～16時(最終日15時)

提供物品等

- ボランティア保険
- ボランティア研修
- 活動期間中に活動中に必要な物品を1,000円程度で提供いたします
- 活動中に必要な物品を1,000円程度で提供いたします

**スケジュール**

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27

※ 活動期間中に活動中に必要な物品を1,000円程度で提供いたします

## 小さなカルチャーセンター publico (パブリコ)



梅ヶ丘駅すぐ近く、郵便局の隣に小さなカルチャーセンター「publico (パブリコ)」が2023年10月にオープンしました。カフェ・スペース(スタジオ・キッチン)・レンタルボックスなど多様な機能を備えた市民営の拠点です。運営しているのはNPO法人子育て支援グループ「publico」。マネージャーの壬生真理子さんにお話を伺いました。

amigoはおでかけひろばの運営など産前産後の家庭を支援する活動をしています。子どもが大きくなると離れてしまうのが悩みだったそう。また、他の事業でも固定した場所がなく活動場所を

転々としていたこともあり、子育て当事者や関係者に限らず、多様な人が来られる活動拠点の確保は長年の課題でした。

オープンにあたってはクラウドファンディングを行い多くの方々から寄付を集めたほか、手づくりで改装を行いました。オープンから一年が経ち、怒濤のような日々だったと言います。日々の運営で広報が追いついていないそうですが、クチコミで利用が広がっているとのこと。最近は平均して1日20人ぐらい(親子含む)が訪れるそう。スペースも自主事業や貸出だけでなく、金曜日「パブリコの金曜日」と称して学校以外の場所でも過ごす子どもたちの居場所として場を開いています。普段も休憩利用や、時間つぶしの方、赤ちゃんとに会えるので来るといふシニア世代もいて、世代問わずつながる場所になっているそうです。課題としては、とにかく人手が足りないこと。立地がよいので、保育園帰りに食事ができる、学習支援や子ども食堂もやりたいそう。立ち飲みバーなど夜の利用も

したいそうですが、子育て当事者世代では時間の確保が難しくどうしてもスタッフ不足になりがち。一緒に場を開いてくれるシニアの方がいればと言います。

多様な方々の利用が広がっているパブリコ。実は最近、子どもたちを産み育てやすいデザインとしてキッズデザイン賞を受賞したそう。場としてのゴールは特に指しておらず、こうなったらいいなというよりは自然に委ねている感じと言います。コミュニティカフェ的な場所として、ちょっとおせっかいな、カフェではできないことをやりたいとも。壬生さんはいもつと気軽に来てほしいと言います。梅丘にお越しの際はぜひパブリコにお立ち寄りください。



publico (パブリコ) 10:00 ~ 18:00 (休業日) 木・日曜・祝日

場所：東京都世田谷区松原 6-2-9

TEL: 070-9130-8439 e-mail: info@publico.jp

HP: <https://www.publico.jp/>

# せたがやキラリ人

世田谷区を中心に活躍する  
キラリと光る素敵な方がたをご紹介します  
取材・星野 弥生



地域に生き、地域を変える  
井上 文さん  
いのうえ あや

世田谷区赤堤に1951年、就学前から住んでいる井上文さん、「ずっと関わってきている組織や市民運動の名称はみんな世田谷なんですよ」。代表理事を務めるSAHS（せたがやオルタナティブ・ハウジング・サポート）では、私たちの住まい・場づくり、まちづくりを私たちが考えたいと、建築家としての文さんたちが相談事業などを行っています。

「せたがや防災NPOアクション」には、10年前の設立時から事務局に関わり、代表の宮崎さんが「発災してからでは遅い。起きる前から顔の見える関係を作っておけば復興は早い」と言うように、赤堤二丁目町会では文さんが防災

部長を務め、月1回の会議の中で検討した、年に3回の防災訓練を行いながら顔見知りになるように心がけています。「赤堤一丁目の防災の課題は、火事に弱いから初期消火が必要」なので、地域の弱点を解決すべく防災計画に消火器の設置などを組み込みます。

世田谷区では、地区防災計画を区内28か所のまちづくりセンター単位で作っていますが、広い世田谷には大きすぎる単位なので、赤堤一丁目では、世田谷区地域の絆連携活性化事業の助成を受け、独自の地区防災計画を他に先駆けて作成しています。「地域によって危険度の種別は違うので、この地域に適した防災計画を自分たちの問題として考えたかったです」。

地域の「せたがやこども食堂・みっと」は、地域のかたがたと2015年から運営しています。子ども6人に1人は貧困という調査結果を受けて、子ども食堂が全国で展開されるようになるはしりの頃です。コロナで中断した時はお弁当を配ったり、やはり先立つ

ものが必要ではと、ぷらっとホーム世田谷（生活困窮者自立相談支援センター）に相談し、寄付金を原資に30世帯に1日500円×30日分を数か月支給し、その後は食材を。常に「何が今一番必要か」に気を配ります。

「みっと」は月一回、第二木曜日に開いています。「小さい子どもを連れなお母さんたちが集い、いろんな人に出会えて挨拶を交わす楽しい居場所になっています。季節を盛り込んだ食事作りを心掛け、普段は人数が少ない8月はすいとんとひとつまぶしの献立に50人も来ました！」。住民の憩いの場である山下公園の向かいに建設予定のマンション問題も地域の重要課題。地域をよく知る建築家の文さんはここでも中心にいます。

区内のいろいろな機関との関係を利用しながら、たくさんの事業に関わる文さん、書類を作成するのも大変でしょうと投げかけると、「私にとつては、税金をいのように使う、税金奪還闘争なんです！」と明快に答えてくれました。

## 高齢女性の外出付き添いボランティア募集！

世田谷区桜にある高齢者施設に入所されている70代の女性が、月に1～2回の外出に付き添ってくださる方を探しています。女性は足が弱っていて室内では杖や歩行器を使って生活されており、外出の際は車いすを使っています。外出先は世田谷区立中央図書館と経堂付近での買い物です。女性は手先が器用で折り紙や編み物が好きな、笑顔が素敵な明るい女性で、一緒に外出していただける女性の方の連絡をお待ちしております。

- 日時／木曜日 2～3時間（月に1～2回）
- 場所／高齢者施設（世田谷区桜）⇔ 世田谷区立中央図書館または経堂駅近辺
- 条件／交通費支給（上限500円程度）、女性の方
- 問合せ／北沢ボランティアビューロー TEL：03-3420-2520  
メール：kitabora@otagaisama.or.jp

## 2歳半の女の子の保育園のお迎えをしていただける方を探しています

仕事をしながら一人で子育てをしているお母さんが転職をされ、お子さんのお迎え(18:30)が難しくなりました。保育園からお迎えして、自宅までベビーカーで送っていただける方を探しています。保育園から自宅は15分程度。月曜日か木曜日でお願いしたいです。働くお母さんを支えていただける方、連絡をお待ちしております。

- 日時／月曜日・木曜日 ※いずれかでも結構です。
- 場所／保育園は代沢2丁目です。
- 問合せ／北沢ボランティアビューロー TEL：03-3420-2520  
メール：kitabora@otagaisama.or.jp

## 家庭ごみを集積所へ出してくれるボランティアを募集しています

池尻2丁目にお住まいの90代の男性の方が、目が見えづらく腰の具合も悪いため、可燃ごみを集積所まで持っていくことができません。そのため、ごみ収集日の前日、水曜の夕方(16時から)もしくは当日、木曜の朝(7時30分～8時30分の間)家の玄関前に置いてあるごみを集積所まで持って行ってくださる方を探しています。詳しくはお問い合わせください。

- 日時／毎週水曜日 16時から。もしくは、毎週木曜日 7時30分～8時30分の間
- 場所／池尻2丁目のご自宅前から、目の前のごみ集積所まで
- 交通／東急田園都市線 池尻大橋駅下車徒歩約10分
- 問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当：小畑 TEL：03-5712-5101  
メール：obata@otagaisama.or.jp

## 小学1年生男の子のお迎えをしてくれる方を募集

小学1年生の男の子が特別支援学級にバス通学しており、お迎えに行って下校に付き添ってくださるひとを探しています。火曜日と水曜日は迎えに行くのが難しいので困っています。特に火曜日のお迎えをしてもらえると助かります。男の子は、本を読むのが好きな素直で明るい子です。男の子に寄り添ってお迎えしてくれる方をお待ちしています。

- 日時／下校時刻は火曜日 14時30分、水曜日 13時（どちらかでも助かります）
- 場所／小学校（用賀地区）からバス（3停留所）で下校（学校からバス亭まで大人が徒歩で5分程度） ●条件／交通費支給（上限有り）
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー 担当：五十嵐 TEL：03-3707-3528  
メール：tamabora@otagaisama.or.jp



## 登校・下校に付き添ってくださるボランティア募集

世田谷区内在住の知的障害のある女の子が、自宅最寄り駅（田園都市線の駅）から後樂園駅近くの学校までの登校または下校に付き添ってくださる方を必要としています。女の子は10代後半で、おとなしい性格です。電車での移動には慣れており、乗り換える駅や路線などは理解しているので、基本的に彼女が移動するのを側で見守っててください。詳しくはお問合せください。

●日時／（登校）月・火・木：自宅最寄り駅で7時50分待ち合わせ、8時40分頃学校着（下校）金：学校前にお迎え16時30分、自宅最寄り駅17時30分頃着

※上記活動日のうち 週1回から可

●場所／後樂園駅近くの学校と自宅最寄り駅の間 ●条件／女性、交通費支給

●問合せ／玉川ボランティアビューロー 担当：五十嵐 TEL：03-3707-3528

メール：tamabora@otagaisama.or.jp

## 4歳の男の子と遊んでくれる方を募集

8月末に出産されたお母さんが、乳児を連れて、元気いっぱい男の子と外出することに少し不安を感じています。主に幼稚園がお休みの土曜日と日曜日に、男の子と一緒に児童館などに出かけて遊んでいただける方を探しています。

興味のある方は砧ボランティアビューロー準備室にお問合せください。

●日時／土曜日は14:00～17:00 日曜日は午前中及び午後 ※時間は応相談

●場所／自宅（上相師谷4丁目）⇔ 粕谷児童館、上相師谷ぱる児童館など

●問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 TEL：03-6411-4007

メール：kinutabora@otagaisama.or.jp

## 囲碁のお相手をしていただける方を募集

喜多見在住の80代の男性が、囲碁のお相手を探しています。以前は碁会所に通っていたのですが、足を悪くされてから外出が難しくなり、大好きな囲碁を打つことができません。男性のご自宅で、一緒に囲碁を楽しんでくださる方を募集します。基本的には木曜日が希望ですが、それ以外の曜日で可能な方もご相談ください。

●日時／毎週木曜日（月1回～）時間は応相談。他の曜日もご相談ください。

●場所／自宅 ●交通／小田急線喜多見駅下車徒歩約10分 ●条件／男性

●問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 TEL：03-6411-4007

メール：kinutabora@otagaisama.or.jp

## 一緒に外出をしてくれる方を探しています

等々力にお住まいの60代の男性が眼の病気で片目を失明し、とても落ち込んで力がなくなっています。人が大勢集まるところやグループ活動が少し苦手なため、なかなか自分だけで出かけることが難しい状況です。ご夫婦で悩まれていましたが、一緒に外出してくれる方が見つかり、お願いしたところ楽しく外出できるようになったきたそうですが、その方の都合が悪くなったため、代わりに一緒に外出して話を聞いてくださる方を探しています。男性は筋力をつけるために歩いて移動することも多いそうで、ある程度体力がある50代までの方だとありがたいです。男女は不問。男性は、草花が大好きで、食べることも大好きな方です。詳しくはお問い合わせください。

●日時／土曜日以外で1時間程度お願いしたいです。（月2回から）

●場所／自宅または東急大井町線等々力駅近辺で待ち合せ。その後目的地まで往復。

●交通／東急大井町線等々力駅 ●条件／交通費・諸費用：支給

●問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528

メール：tamabora@otagaisama.or.jp

上記掲載記事は10月18日時点の情報です。  
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

## 知的障害がある男性に施設に行くまで付き添ってくださる方募集

知的障害がある男性（40代）が通所する施設に、行きだけ一緒に付き添って歩いてくださる方を求めています。危険がないよう見守りながら付き添っていただける方、お待ちしております。詳細は烏山ボランティアビューローまでご連絡ください。

- 日時／火曜日 自宅を朝8時半に出発～施設まで
- 場所／自宅（上祖師谷2丁目）から烏山福祉作業所（北烏山1-29-15）まで徒歩30分
- 交通／京王線千歳烏山駅
- 条件／報酬：1,000円/1時間 交通費別途支給。※区の緊急介護人に登録いただきます
- 問合せ／烏山ボランティアビューロー TEL：03-6909-0333  
メール：karasubora@otagaisama.or.jp

## 電車での通所に付き添ってくださる有償スタッフを募集！

粕谷にお住まいの知的障害のある男性（40代）が、京王線に乗って施設へ通っています。問題なく電車に乗って通えるように付き添ってくださる方を探しています。長年、一人で通っていますが、電車が大好きで自分の気に入った場所・席があるため、そこに人がいる際にトラブルになってしまったことがあります。近くで見守りながら一緒に電車に乗ってくださる方のご応募をお待ちしています。

- 日時／月・水・木曜の午前9時～10時頃。週1回でも可
- 経路／自宅（京王線千歳烏山駅徒歩8分ほど）から千歳烏山駅まで一緒に歩いていただき、9時30分頃の各駅停車の電車に乗り、代田橋駅下車。
- 条件／報酬：1,000円（区の緊急介護人制度を利用）。千歳烏山駅から代田橋駅までの往復交通費支給
- 問合せ／烏山ボランティアビューロー TEL：03-6909-0333  
メール：karasubora@otagaisama.or.jp

## 中学3年生女子の学校生活サポートをしたださる方を募集

中学3年生の女の子の学校生活をサポートしてくれる方を求めています。女の子は神経難病で人工呼吸器を使用し、大きめの車いすで通学しています。授業のサポート、トイレの介助など、女の子が充実した学校生活を過ごせるようお力添えください。看護師さんとペアでサポートしていただきます。短い言葉とタブレットを使ってコミュニケーションします。友だちとの交流もやさしく見守ってください。受験生なので、授業の内容をしっかりと身に付けたいと思っています。

- 日時／（月～金）8時20分～16時00分まで ※（水）8時20分～15時00分まで
- 場所／千歳烏山駅近辺の中学校 ●交通／京王線千歳烏山駅から徒歩10分程度
- 条件／女性、60歳以下、教員資格のある方・塾講師の経験のある方を希望
- 問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 TEL：03-6411-4007  
メール：kinutabora@otagaisama.or.jp

## 北沢ビューロー「手作り市」開催

北沢ボランティアビューローで活動をしている手作りグループによる手作り市を開催します。布製バッグ・手編みの帽子やマフラー・小物入れなど素敵な作品を販売します。ご来場をお待ちしています。

- 日時／11月30日（土）10時30分～15時00分
- 場所／北沢ボランティアビューロー1階（世田谷区梅丘1-8-9）
- 問合せ／北沢ボランティアビューロー TEL：03-3420-2520  
メール：kitabora@otagaisama.or.jp

## せたがや学生ボランティアフォーラム開催

世田谷区内で活動する大学生が、ボランティア活動について発表し、地域のみなさんとつながるイベントを開催します。大学生と連携した地域活動に興味のある方はぜひご参加ください！ワークショップやボランティア適性診断にもご参加ください。

★参加学生団体（予定）

※ 50音順

国立館大学：児童教育研究会、駒澤大学：駒沢大学ボランティアサークル、駒澤大学学生赤十字奉仕団、昭和女子大学：昭和女子大学 ENVO、学生ボランティア委員会、テンブル大学：TUJ COSA、東京医療保健大学：Super Nutritious、東京農業大学：ボランティアサークルいそべや、日本大学文理学部：学生国際ボランティアグループ Salamat “A”、明治大学：きずな international、心身障害者福祉会しいの実、ぱれっと、のえる、SHIP、Relief

★プログラム

- ・学生ボランティア団体の活動発表・ポスターセッション
- ・ワークショップ（災害クイズ、ごみ分別ゲーム、献血呼びかけ体験ほか）

★共催 せたがや学生ボランティアネットワーク、世田谷区、社会福祉法人世田谷ボランティア協会

●日時／11月30日（土）14時～16時30分（受付開始13時30分）

●会場／北沢タウンホール（小田急線下北沢駅東口徒歩5分）

●参加申込方法／TEL: 03-6304-3174 世田谷区生活文化政策部 市民活動推進課（月～金曜日9時～17時）、オンライン手続きはこちらを参照ください⇒ <https://logoform.jp/f/Cvnu5>

●問合せ／世田谷区生活文化政策部 市民活動推進課（9時～17時 土日祝休）TEL：03-6304-3174 FAX：03-6304-3597



## 災害ボランティアコーディネーター養成講座（基礎編）@日本体育大学

2024年度5回目となる「災害ボランティアコーディネーター養成講座 基礎編」を日本体育大学にて開催します！内容は講義・模擬訓練、世田谷区の災害対策、災害ボランティアの活動内容（世田谷方式）等を学びます。

●日時／12月8日（日）13時30分～16時30分 ※13時より受付開始

●会場／日本体育大学（世田谷区深沢7-1-1）

●交通／東急田園都市線桜新町駅徒歩15分 ●参加費／無料

●申込／12月6日（金）正午までに、右記二次元コードから、または問合せ先にご連絡ください。

●問合せ／せたがや災害ボランティアセンター  
TEL：03-5712-5101



## AIシステムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAIシステムによるマッチングサイト（世田谷版G B E R「ジーバー」）で結び付け、ボランティア活動を支援します。

詳細は右記二次元コードからご覧ください。



上記掲載記事は10月18日時点の情報です。  
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

## 世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点

〒157-0065 上祖師谷1-11-14(千歳烏山駅 徒歩12分)  
烏山ボランティアビューロー  
TEL 03-6909-0333 FAX 03-6909-0355

千歳烏山駅

〒154-0004 太子堂4-26-9  
(三軒茶屋駅 徒歩5分)  
スペース ココカラ。  
(ぼーとせたがや・パートナーセンター)  
TEL 03-6804-0405

明大前駅

〒154-0022 梅丘1-8-9(梅ヶ丘駅 徒歩5分)  
北沢ボランティアビューロー  
TEL 03-3420-2520 FAX 03-3706-2854

梅ヶ丘駅

下北沢駅

〒154-0002 下馬2-20-14(三軒茶屋駅 徒歩12分)  
世田谷ボランティアセンター・せたがや災害ボランティアセンター・  
せたがやチャイルドライン事務局 TEL 03-5712-5101 FAX 03-3410-3811  
ケアセンターふらっと TEL 03-5712-5105 FAX 03-3410-3813

成城学園前駅

三軒茶屋駅

〒157-0066 成城6-3-10(成城学園前駅 徒歩3分)  
砧ボランティアビューロー準備室  
TEL 03-6411-4007 FAX 03-6411-5888

〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋(三軒茶屋駅 徒歩15分)  
1階 ケアセンターwith TEL 03-6805-4715 FAX 03-6805-4718  
2階 ケア相談センター結(ゆい) TEL 03-5433-2830 FAX 03-6383-2156  
2階 ケアステーション連(れん) TEL 03-6805-4716 FAX 03-6805-4718  
2階 地域障害者相談支援センターぼーとせたがや TEL 03-6804-0405 FAX 03-6383-2156

二子玉川駅

〒158-0094 玉川2-1-15(二子玉川駅 徒歩5分)  
玉川ボランティアビューロー  
TEL 03-3707-3528 FAX 03-3708-3058

### 相談・お問い合わせ先

- ボランティアについて ▶ 【世田谷ボランティアセンター、各ボランティアビューロー】
- 災害ボランティアについて ▶ 【せたがや災害ボランティアセンター】
- リハビリについて ▶ 【ケアセンターふらっと、ケアセンター with】
- 訪問介護について ▶ 【ケアステーション連】
- 介護プランについて ▶ 【ケア相談センター結】
- 障害について ▶ 【ぼーとせたがやスペース ココカラ。】

### ご意見・ご感想等お寄せください

皆さまのご意見・ご感想などをお待ちしております。「こうしたボランティア情報が読みたい！」などもございましたら、お気軽にお寄せください。今後の参考にさせていただきます。



協会ホームページ、  
Facebook、Instagramは  
こちらの二次元コードから  
ご確認ください！



ホームページ



Facebook



Instagram

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。